左京みらいデザイン会議の主な意見に対する対応について

資料４

		いただいた主な意見	対応
1	全体	「区民」という言葉：運営方針の主体が区役所と区民であれば「私たち」となるのでは？分断されている印象も受ける。	みんなが自分ごとと認識してもらうために、主語を「区民や左京に関わるすべての人々」としている。区役所は「左京に関わる全ての人々」に当然含まれるため変更なし。
2		「支援」という言葉：この言葉があると、どうしても支援する側とされる側に分断してしまう。予算、リソースを一緒に使っていく、というニュアンスがあれば。	「重層的な支援を築（いて）」という表記を削除
3		字をもっと少なくしたい。余白、抽象度を残すことで、それぞれの受け手に各自で言語化してもらう余地を残しては。主体性も生まれやすい。	A3版のみでも理解できるようある程度の説明文は残しつつ、文字量の削減に努めた。
4	目指す姿	助ける助けられるの順番が逆でもいいのでは。	一般的には「助ける」「助けられる」の順(Give&Take)もあるため変更なし。
5		目指す姿の具体例を記載した方が理解しやすいのではないか。	具体例については、詳細版に記載しており、A3版は変更なし。
6	共有したい思い	区役所も含めて大切にしたいことであれば、「皆様と共有したい思い」はどうか。	左記のとおり修正
7		「意識」という言葉は知識が必要（ex.「意識が大切」→なんの？どんな？）。伝えづらい、伝わりづらい。	「意識」という表記を削除
8	方向性	各柱の見出しを動詞で統一しては。	各見出しを動詞で統一
9		写真等ビジュアルで訴える方がよい。	写真を添付
10		特定のエリアにフォーカス、あるいは打ち出し方として「北部山間地域」を明示するのではなく、各地域で交流や接点を積極的に作っていく、というスタンスにフォーカスしては。いろんな特性を持った地域があることをポジティブに捉えてはどうか。	区役所として条件不利地域である、北部山間地域のまちづくりに取り組むことは打ち出すべきと考え、柱として残した。
11		まちづくりの主体として「事業者」がやっている事例も増えてきている。「事業者」ということばがどこかで出てきてもいいかも。	柱1に「事業者」を追記
12	取組	左京カタリストが誰かわからない。	A3版から「左京カタリスト」を削除
13		「子ども」はここで初めて出てくるが、方向性では出さないのか。	柱1に「子どもから高齢者まで」を追記
14	その他	この会議を北部、南部で実施するなど、地域の直の声を聴くべき。同じことを言ってもそれぞれで受け止め方は違うはず。	6/25市協会長会で説明、市民しんぶん8月号で周知し、ご意見を伺う機会を設けた（メールフォーム）。
15		子ども版を作成してはどうか。	小学校高学年以上であれば理解できるようなわかりやすい表現で作成したため、こども版の作成はしない。
16		ロゴ、シンボルマークを作成してはどうか。	関心を持ってもらう取組については、引き続き検討する。